

第25章 地域編①：ジャカルタ、西ジャワ州

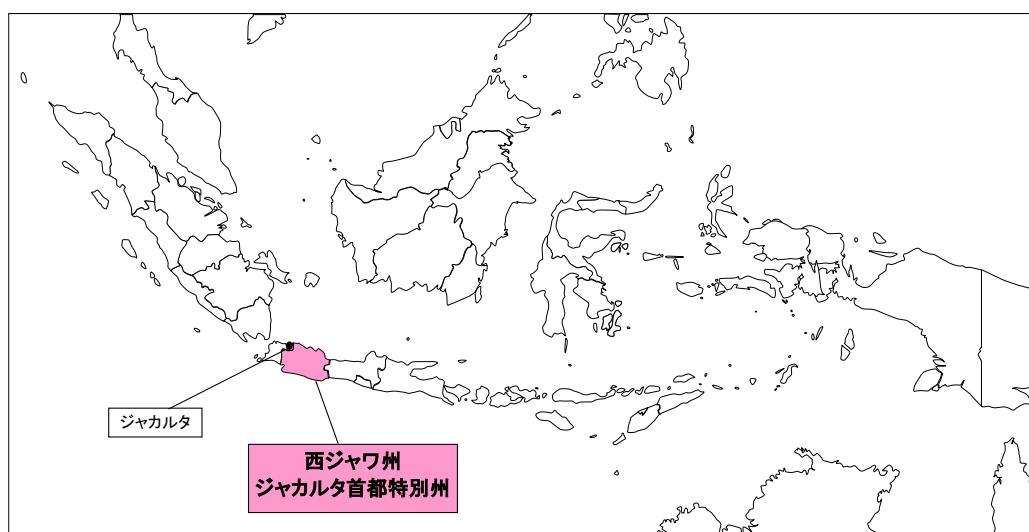
1. 地域概要

(1) 概要

①インドネシア国内における経済的地位

ジャカルタ首都特別州（以下、ジャカルタ）は、ジャワ北西部に位置し、ジャワ海に面している（図表 25-1）。面積では国土の 0.03% の広さしかないが、人口 1,068 万人（2024 年）で、インドネシア全体の 3.8% を占める。人口密度が高く、労働力の流動性、厚みも十分ある。また高等教育機関が多数立地していることから、優秀な人材も集めやすい。

図表 25-1 ジャカルタ首都特別州、西ジャワ州（地図）



（出所）白地図専門店（三角形）より作成

ジャカルタの市北部にはインドネシア最大の国際貿易港タンジュンプリオク港を擁し、世界市場へのアクセスも容易である。

西ジャワ州はジャカルタに隣接し、北側はジャワ海、南側はインド洋に面している。内陸部には、植民地時代より政治・経済・文化の中心地として発展してきた州都バンドンがあるジャワではジャカルタ首都特別州、東ジャワ州に次いで経済活動が盛んな地域である。さらに、西ジャワ州にはインフラ整備の整った工業団地が国内で最も多く立地し、製造業の進出が進んでいる。他の地域に比べて規模の大きい国際港湾、国際空港が近いことや労働力人口が多いことから、製造企業にとって進出地域を検討する際の筆頭候補となっている。

②工業団地・日系企業進出動向

2024 年の外国直接投資の流入額（認可ベース）のうち多かったのは西ジャワ州（99.7 億ドル）、中部スラウェシ州（90.2 億ドル）、ジャカルタ首都特別州（76 億ドル）であった。インドネシアの経済活動は依然としてジャワ島、特にジャカルタと西ジャワ州に集中しており、日系企業の進出先も両地域が 9 割以上を占めている。

西ジャワ州の中でも、ジャカルタから東方に延びるジャカルタ・チカンベック高速道路に沿って、多数の工業団地が立地している。MM2100 工業団地（丸紅）、ダイワ・マヌンガル工業団地（大和ハウス工業）、東ジャカルタ工業団地（EJIP、住友商事）、GIIC 工業団地（双日）、カラワン工業団地（KIIC、伊藤忠）、テクノパークインドネシア（豊田通商）、インド大成ブキット・インダ工業団地（大成建設）など、日系デベロッパーが参入している工業団地も沿線に多数立地している。2024 年には新設の SEZ として石油化学や電気自動車（EV）バッテリー、半導体、物流、エネルギー開発を推奨業種とする西ジャワ州スパン県の「パティンバン経済特区」、EV の生産・組み立てと物流を推奨業種とする「スパン経済特区」が承認された。

(2) 進出日系企業から見た事業・生活環境やコスト

①インフラ・物流

【道路】

ジャカルタ市内は交通インフラの整備が立ち遅れており、慢性的な交通渋滞が起きている。特に朝夕や降雨時の渋滞は深刻である。このため、車で移動する場合、到着時間を予測するのがしばしば困難となる。また、事故発生率が高いため、外国人は自家用車での移動では運転手を雇用している。

西ジャワ州には首都ジャカルタからチカンペックへの高速道路が開通しているが、特に朝夕の通勤時は高速道路にも渋滞が発生している。多くの日系企業では、国際港、空港への輸送は 1 日 1 往復しかできない。渋滞解消を目的に、従来のチカンペック高速道路の高架道である第 2 チカンペック高速道が建設され、2021 年に開通した。2028 年までに全線開通予定の第 2 チカンペック高速道の第 3 区間（Sukabungah～Sadang）は、2024 年後半に商業運用開始が予定されていたが、2025 年時点では全体の建設進捗は約 40% にとどまっており、完全開通には至っていない。

【空港・港湾】

国際空港としてはスカルノ・ハッタ国際空港が、国際港ではタンジュンプリオク港がある。同港は 2011 年頃から貨物取扱能力が限界に達していたが、2016 年 9 月に新コンテナターミナル「ニュープリオク港」が操業を開始し、貨物取扱能力が 3 割増強された。

西ジャワ州は首都ジャカルタに隣接しているため、スカルノ・ハッタ国際空港、タンジュンプリオク港に近い。これらの空港・港湾の概要は「第 20 章 物流・インフラ」を参照のこと。

【電力】

電力はほぼ安定的に供給されているものの、乾季や発電所の定期検査が重なると、電力不足に陥る。洪水による電線の切断なども停電の原因となる。また、瞬間停電は依然として頻繁に起きている模様である。

②労働事情

【人材】

現地調査では、ホワイトカラーの場合は良い人材を採用しようとするとコストは高くなり、給与を安くすると質が急カーブで落ちる印象がある、長時間労働もいとわない傾向がある、という声が聞かれた。

他方、ブルーカラーは人余りの状況であり、人材採用には苦労しないようだ。

【賃金】

ジャカルタは経済の中心地であり、市内のワーカーの賃金水準は国内で最も高い。2024年12月に発表された2025年の最低賃金は約540万ルピアであり、2024年比で6.5%増となる。

西ジャワ州の最低賃金は206万ルピアで、全国平均(313万ルピア)を下回る。ただし、州内でも日系企業の進出が多いブカシ県(522万ルピア、約48,500円)やカラワン県(526万ルピア)などの最低賃金は、州の最低賃金を2倍以上上回る水準となっている。

③生活環境

【一般】

首都ジャカルタは世界有数の大都市であり、街中には、そごうなどの百貨店やイオンなど大型スーパーが展開している。地場資本の高級スーパーマーケットは品揃えも多く、日本人駐在員にとっては生活しやすい都市であるといわれる。現地駐在員へのヒアリングでは、食材の購入には2025年10月時点でインドネシア全土で5施設展開するイオンモールのうち、1号店(イオンモールBSD CITY)、2号店(イオンモール ジャカルタガーデンシティ)、「PAPAYA」スーパーマーケット、「THE FOOD HALL」、「RANCH MARKET」が多く利用されているようである。

コンビニエンスストアでは、2009年にセブン-イレブンが初めてインドネシアに出店、2011年にはローソン、2012年にはファミリーマートとミニストップが相次いで初出店を果たした。しかし、ミニマーケット業態への外資企業に対する規制が厳しかったことから、2016年にミニストップが地場企業に対する地域フランチャイズ契約を終了して撤退し、2017年にはセブン-イレブンが酒類の販売規制などの影響で売上が減少したことから全店を閉鎖した。2025年時点ではローソン、ファミリーマートがインドネシアで店舗を展開している。なお、コンビニは地場の華人財閥サリム・グループの「インドマレット」と、流通大手スンブル・アルファリア・トリジャヤが運営する「アルファマート」が2強となっている。

西ジャワ州へはジャカルタ市内から通勤する日本人社員が多い。ただし近年は、ジャカルタから離れた工業団地近辺の住環境の整備も進んでいる。よって、渋滞が深刻なジャカルタ市内から

の通勤を止め、工業団地近辺のサービスアパートに居住する駐在員も増えている。なお、「PAPAYA」スーパー・マーケットは、豊田通商が西ジャワ州ブカシ県リッポーチカラーン地区に開設したサービスアパートメント「AXIA SOUTH CIKARANG」に隣接した立地にも店舗を構えている。

【食事】

各国料理のレストランが多数あり、選択肢が多い。「吉野家」や「大戸屋」、「丸亀製麺」「スシロー」など日本のチェーン店が多数進出しており、日本料理店も多い。日本食品専門店もあり、高価ではあるが大抵の食品が入手可能である（味噌、醤油、梅干、ワカメ、日本酒など）。

【教育】

ジャカルタ南西のタンゲラン州に、ジャカルタ日本人学校がある（1969年開校）。2025年4月時点で小学部・中学部を合わせ697名の生徒が在籍している。同校は幼稚部も設置しており、141名の園児が在籍している（2023年12月時点）。

西ジャワ州では、主要工業団地からはやや遠いが、州都バンドン市内にバンドン日本人学校（幼稚園、小学部、中学部）があり、2025年4月時点の生徒数は幼稚園8名、小学部16名、中学部6名である。また、2019年4月にはブカシ県チカラーンにチカラーン日本人学校（小学部、中学部）が開校した。2025年4月時点で小学部・中学部を合わせ246名が在籍している。

【医療】

現地調査では、医療の質に不安があるという声が複数聞かれた。大きな病気になったときなどには、シンガポール、日本で診断してとの声もあった。なお、インドネシアは熱帯地方で高温多湿な気候であり、食中毒など消化器系の感染症、デング熱など、日本にはない風土病などに注意が必要である。

【治安】

インドネシアでは、ジュマ・イスラミーヤ（JI）が首謀したとされる大規模な爆弾テロがジャカルタやバリ島で2002年から4年連続発生し、2009年7月にもジャカルタで発生した。その後はテロの実行グループに属すると見られるメンバーの多くが各地で摘発されたため、治安機関を攻撃対象とする小規模な事件は発生していたものの、JIなどのイスラム過激派組織は弱体化したと見られている。

2016年以降は、イスラム過激派組織「ISIL」（イラクとレバントのイスラム国）によるテロが発生している。2016年1月にジャカルタ中心部のスターバックスにおいてテロ事件が発生し、外国人1名を含む民間人4名が死亡し（犯人4名も死亡）、警察官5名や外国人4名を含む26名が負傷した。更に、2017年5月には東ジャカルタのカンプン・ムラユのバスターミナルで警察官を狙った自爆テロ事件が発生し、犯人2名を含む5名が死亡、11名が負傷した。ISILを支持するグループは各地で活動しており、ジャカルタ以外の地方でも自爆テロやキリスト協会への火炎瓶投て

きなどの事件が発生している。

2019年5～6月にはジャカルタ中心部において、大統領選挙の結果を不服とする一部の野党支持者によるデモが度々実施された。デモ隊が暴徒化して治安部隊と衝突し、多数の死者、負傷者の発生もあった。日本大使館前のタムリン通りなどの主要道路が封鎖されるなど、市内では大きな混乱が生じた。

この他、首都ジャカルタをはじめとする主要都市では、宗教関係者・学生・労働組合など様々なデモ活動が発生する可能性がある点、留意を要する。

2025年8月下旬より、インドネシア各地において国會議員への高額住宅手当支給に端を発した大規模な抗議活動が発生している。学生団体、労働組合、市民団体などが中心となり、抗議デモが展開されており、一部地域では治安部隊との衝突や事故も発生しこれまでに10名が死亡した。今回の抗議活動は、国民議会（DPR）議員に対して月額5,000万ルピア（約45万円）の住宅手当が支給されることが発端であるが、雇用の不安定さや物価高騰などの国民の不満も背景にあるとされている。特に、8月28日にジャカルタで発生した警察車両によるオートバイ運転手の死亡事故は、抗議の拡大と警察対応への批判を招いた。2025年9月時点で、政府は事態の沈静化に向けて議員住宅手当の即時廃止や労働組合代表との対話を行った。

【住居】

住居のタイプは、アパート、サービスアパートメント、一戸建てなどがあるが、駐在員の場合は安全性を重視したコンプレックス戸建てや中高層マンションに入居するケースが多い。居住地区は、家族帶同の場合、日本人学校に近いジャカルタ南部に住む場合が多い。単身の場合は、中心部など様々である。なお、駐在員は、運転手や家政婦など、複数の使用人を雇うのが一般的である。

【その他】

現地での日本語での情報収集は、在インドネシア日本大使館とジャカルタ・ジャパン・クラブ（JJC）を通じて行うのが一般的である。JJCは1970年に創立され、インドネシア国内に点在する16の日本人会で唯一商工会の機能も有している（2025年6月時点、会員企業数は681社）。西ジャワ州には日本人会として、バンドンジャパンクラブがある。

インドネシアでは英語でのコミュニケーションは難しいため、インドネシア語の習得が望まれる。ゴルフ場は多数立地している。

ひとくちメモ 8：地域ごとに異なる「インドネシア料理」

インドネシア料理と言えば、チャーハンのような「ナシゴレン」と焼きそばのような「ミーゴレン」が有名だが、多民族文化であるインドネシアでは、ジャワ料理、パダン料理、スンダ料理、バリ料理など、各地方によって様々なインドネシア料理があり、地方によって辛さや甘さの味付けも大きく異なる。

ジャカルタ中心部のプラザ・インドネシアにあるパダン料理のお店では、入店して席に着くと注文を待たずに次々と小さなお皿に載ったお料理が運ばれてくる。食べたいものを食べていき、最後にお会計をお願いすると、まるで回転寿しのようにスタッフが計算をしてくれるシステムのお店で、様々なパダン地方の料理を楽しむことができる。各料理の料金は決まっているが、お皿に手を付けたかどうかをどのようにチェックしているかは、何度も利用している現地駐在員でも定かではないとのことであった。



また、別のインドネシア料理店では、下の写真のように中心にご飯を円錐型に盛り付け、その周りに様々なおかずを載せた料理も見かける。これはジャワ島発祥の料理で、今ではインドネシア全土で、誕生日パーティーや結婚式などのお祝い事で食べられるナシ・トゥンペンという料理である。「黄色いご飯」を意味するナシ・クニンは、お米を主食とするインドネシアにおける赤飯のような位置付け（黄色は繁栄を意味する色）で、これを神聖な山の形に盛り付けることで神への感謝を示しているという。



2. 主要工業団地

ジャカルタ首都特別州・西ジャワ州に立地する主要工業団地を以下の表にまとめた。

【ジャカルタ特別首都州】

No.	工業団地名	Address (県／市)
1	Jakarta Industrial Estate Pulogadung (JIEP)	Kawasan Industri Pulogadung, Pulogadung, Cakung, Jakarta Timur
2	Berikat Nusantar Industrial Estates	Jl. Raya Marunda 1 – Cilincing, Jakarta Utara

(出所) JETRO「インドネシアの工業団地・SEZ情報」、BKPM “Indonesia Investment Guidebook 2022”

No.	工業団地名	Address
1	East Jakarta Industrial Park (EJIP)	EJIP Industrial Park Plot 3A, Cikarang Selatan, Bekasi 17550 West Java, Indonesia
2	Greenland International Industrial Center (GIIC)	Jl. Tol Jakarta - Cikampek KM. 37, Cikarang Pusat 17530, Bekasi Jawa Barat, Indonesia.
3	Karawang International Industrial City (KIIC)	Graha KIIC 2nd Floor, Jl. Permata Raya Lot. C-1B, Kawasan Industri KIIC. Karawang 41361- West Java, Indonesia
4	MM2100 Industrial Town	MM2100 Industrial Town, Cikarang Barat, Bekasi 17520 West Java, Indonesia
5	Suryacipta	Karawang 県, West Java
6	Subang Smartpolitan	Subang 県, West Java
7	BUKIT INDAH INDUSTRIAL PARK	Kawasan Industri. Sektor 1A Blok B, Kalihurip Cikampek 41373, Jawa Barat

(出所) JETRO「インドネシアの工業団地・SEZ情報」、BKPM “Indonesia Investment Guidebook 2022”